

第3回 運行管理者模擬試験問題（貨物） 解答・解説

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
A 1, B 9, C 6, D 8, E 4	4	3	1, 4	3
問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
2	2	1, 3	2	A 3, B 8, C 1, D 6, E 5
問 11	問 12	問 13	問 14	問 15
3	1, 4	4	1, 4	1
問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
1	2	2, 3	1	1, 4
問 21	問 22	問 23	問 24	問 25
4	2, 3	3	適 : 1, 3 不適 : 2, 4	適 : 1, 3, 4 不適 : 2
問 26	問 27	問 28	問 29	問 30
適 : 3, 4 不適 : 1, 2	適 : 3, 4 不適 : 1, 2	適 : 1, 2, 3 不適 : 4	適 : 2, 4 不適 : 1, 3	3, 4

■ 問 1 正解 : A 1, B 9, C 6, D 8, E 4

貨物自動車運送事業法 1 条

この法律は、貨物自動車運送事業の運営を（適正かつ合理的）なものとするとともに、貨物自動車運送に関するこの法律及びこの法律に基づく措置の遵守等を図るための（民間団体等）による（自主的な活動）を促進することにより、（輸送の安全）を確保するとともに、貨物自動車運送事業の（健全な発達）を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。

「1-1 貨物自動車運送事業法の目的・用語の定義」参照

■ 問 2 正解 : 4

1. 誤り。事業計画に従い業務を行うに必要な員数の事業用自動車の運転者を常時選任しておくことは、事業者の業務である。
2. 誤り。休憩・睡眠に必要な施設を整備し、これらの施設を適切に管理し、及び保守することは、事業者の業務である。
3. 誤り。運転者の勤務時間及び乗務時間を定め、当該運転者にこれらを遵守させることは、事業者の業務である。
4. 正しい。

「1-7 過労運転の防止」、「1-18 運行管理者の業務」参照

■問 3 正解：3

貨物自動車運送事業法 33 条

国土交通大臣は、一般貨物自動車運送事業者が貨物自動車運送事業法若しくは同法に基づく命令若しくはこれらに基づく（処分）若しくは道路運送法第 83 条（有償旅客運送の禁止）若しくは第 95 条（自動車に関する表示）の規定若しくは同法第 84 条第 1 項（運送に関する命令）の規定による（処分）又は許可若しくは（認可）に付した（条件）に違反したときは、（6 ヶ月）以内において期間を定めて（自動車）その他の輸送施設の当該事業のための使用の停止若しくは事業の全部若しくは一部の停止を命じ、又は事業の許可を取り消すことができる。

「1-5 行政処分等」参照

■問 4 正解：1, 4

1. 正しい。
2. 誤り。乗務後の点呼においては、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況について報告を求めなければならない。
3. 誤り。記述のような中間点呼が必要なのは、乗務前及び乗務後の点呼のいずれも対面で行うことができない乗務を行う場合である。
4. 正しい。

「1-9 点呼」参照

■問 5 正解：3

1. 報告を要しない。鉄道車両と衝突又は接触した場合には自動車事故報告規則に基づく報告が必要だが、遮断機に接触しただけであれば報告は不要である。
2. 報告を要しない。死者又は重傷者を生じさせた場合には自動車事故報告規則に基づく報告が必要だが、「通院による 30 日間の医師の治療を要する傷害」は重傷に該当しないため報告は不要である。
3. 報告を要する。
4. 報告を要しない。損害金額の大きさは自動車事故報告規則にいう事故とは無関係であり、報告は不要である。

「1-14 事故報告」参照

■問 6 正解：2

貨物自動車運送事業輸送安全規則 10 条 1 項、2 項

1. 貨物自動車運送事業者は、国土交通大臣が告示で定めるところにより、当該貨物自動車運送事業に係る主な（道路の状況）その他の事業用自動車の運行に関する状況、その状況の下において事業用自動車の運行の安全を確保するために必要な（運転の技術）及び法令に基づき自動車の運転に関して遵守すべき事項について、運転者に対する適切な指導及び監督をしなければならない。この場合においては、その日時、場所及び内容並びに指導及び監督を行った者及び受けた者を記録し、かつ、その記録を営業所において（3 年間）保存しなければならない。
2. 一般貨物自動車運送事業者等は、国土交通大臣が告示で定めるところにより、次に掲げる運転者に対して、事業用自動車の運行の安全を確保するために遵守すべき事項について特別な指導を行い、かつ、国土交通大臣が認定する（適性診断）を受けさせなければならない。
 - 一 死者又は負傷者（自動車損害賠償保障法施行令第 5 条第二号、第三号

又は第四号に掲げる傷害を受けた者をいう。)が生じた事故を引き起こした者

- 二 運転者として新たに雇い入れた者
- 三 高齢者（(65才)以上の者をいう。）

「1-13 乗務員の指導・監督」参照

■問 7 正解：2

- 1. 誤り。乗務の記録には、乗務した距離を記録させなければならない、貨物を積載して運行した距離ではない。
- 2. 正しい。
- 3. 誤り。このような事業用自動車に乗務した場合にあっては、貨物の積載状況を記録させなければならない。荷主の氏名・名称は記録不要である。
- 4. 誤り。乗務等の記録は、1年間保存しなければならない。

「1-10 乗務等の記録・運行記録計」参照

■問 8 正解：1, 3

- 1. 正しい。
- 2. 誤り。一般貨物自動車運送事業者等は、運行管理者資格者証を有する者又は国土交通大臣が認定する講習を修了した者のうちから、運行管理者の業務を補助させるための補助者を選任することができる。
- 3. 正しい。なお、被けん引自動車については、運行管理者の選任が必要な事業用自動車として数えないので、本肢の場合、運行管理者の追加選任を要しない。
- 4. 誤り。国土交通大臣は、資格者証の交付を受けている者が貨物自動車運送事業法若しくは同法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したときは、当該運行管理者に対し、その資格者証の返納を命ずることとなる。

「1-16 運行管理者の選任等」、
「1-17 運行管理者資格者証」参照

■問 9 正解：2

- 1. 誤り。道路運送車両法の目的は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行うことである。
- 2. 正しい。
- 3. 誤り。道路運送車両法の目的は、道路運送車両に関し、整備についての技術の向上を図ること及び自動車の整備事業の健全な発達に資することである。
- 4. 誤り。道路運送車両法の目的は、道路運送車両に関し、安全性の確保を図ることである。

「2-1 道路運送車両法の目的・用語の定義」参照

■問 10 正解：A 3, B 8, C 1, D 6, E 5

道路運送車両法 46 条

自動車の構造及び自動車の装置等に関する(保安上)又は公害防止その他の環境保全上の技術基準（「保安基準」という。）は、道路運送車両の構造及び装置が(運行)に十分堪え、操縦その他の使用のための作業に（安全）であるとともに、通行人その他に(危害)を与えないことを確保するものでなければならない、かつ、これにより製作者又は使用者に対し、自動

車の製作又は使用について(不当)な制限を課することとなるものであってはならない。

「2-11 道路運送車両の保安基準の原則」参照

■問 11 正解：3

1. 誤り。1日1回、運行開始前に行わなければならない。
2. 誤り。1日1回、運行開始前に行わなければならない。
3. 正しい。走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に点検を行うことで足りる。
4. 誤り。1日1回、運行開始前に行わなければならない。

「2-8 自動車の点検整備」参照

■問 12 正解：1, 4

1. 正しい。
2. 誤り。記述のような内容の自動車の原動機には、時速 90 キロメートルを超えて走行しないよう燃料の供給を調整する速度抑制装置を備えなければならない。
3. 誤り。自動車の前面ガラスおよび側面ガラスは、フィルムが貼り付けられた状態において、可視光線の透過率が 70%以上であることが確保できるものでなければならない。
4. 正しい。

「2-12 道路運送車両の保安基準①」、
「2-13 道路運送車両の保安基準②」参照

■問 13 正解：4

道路交通法 22 条の 2 第 1 項

自動車の運転者が最高速度違反行為を当該自動車の使用者（当該自動車の運転者であるものを除く。）の(業務)に関してした場合において、当該最高速度違反行為に係る自動車の使用者が当該自動車につき最高速度違反行為を防止するため必要な(運行)の管理を行っていると認められないときは、当該自動車の使用の本拠の位置を管轄する(公安委員会)は、当該自動車の使用者に対し、最高速度違反行為となる運転が行われることのないよう運転者に指導し又は(助言)することその他最高速度違反行為を防止するため必要な措置をとることを(指示)することができる。

「3-3 自動車の速度」参照

■問 14 正解：1, 4

1. 正しい。
2. 誤り。他の車両（軽車両を除く。）を追い越してはならないのは、道路のまがりかど付近、上り坂の頂上付近又は勾配の急な下り坂の道路の部分である。
3. 誤り。車両は、トンネル内においては、車両通行帯の設けられた道路以外の道路の部分において、他の車両（軽車両を除く。）を追い越してはならない。
4. 正しい。

「3-5 追越し等」参照

■問 15 正解：1

1. 誤り。車両は、前車が法令の規定により右折をするため道路の中央又は右側端に寄って通行しているときは、その左側を通行しなければなら

ない。

2. 正しい。
3. 正しい。
4. 正しい。

「3-5 追越し等」、「3-7 交差点等における通行方法・踏切等」、
「3-8 一時停止・駐停車」参照

■問 16 正解：1

道路交通法 108 条の 34

車両等の運転者が道路交通法若しくは同法に基づく命令の規定又は同法の規定に基づく（処分）に違反した場合において、当該違反が当該違反に係る車両等の（使用者）の（業務）に関してなされたものであると認めるときは、（公安委員会）は、内閣府令で定めるところにより、当該車両等の（使用者）が道路運送法の規定による自動車運送事業者、貨物利用運送事業法の規定による第二種貨物利用運送事業を営業者であるときは当該事業者及び（当該事業を監督する行政庁）に対し、当該違反の内容を通知するものとする。

「3-16 その他の規定」参照

■問 17 正解：2

1. 正しい。「車両進入禁止」の標識である。
2. 誤り。この標識は、「大型貨物自動車等通行止め」の標識であり、車両総重量が 8,000kg 以上、最大積載量 5,000kg 以上の中型、大型貨物自動車等の通行を禁止するものである。
3. 正しい。「車両横断禁止」の標識である。
4. 正しい。「重量制限」の標識である。

「3-17 道路標識」参照

■問 18 正解：2, 3

1. 誤り。労働基準法で定める基準に達しない労働条件を定める労働契約は、その部分については無効とする。この場合において、無効となった部分は、労働基準法で定める基準による。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。使用者は、労働者の貯蓄金をその委託を受けて管理しようとする場合には、労働組合があるときはその労働組合、労働組合がないときは労働者の過半数を代表する者との書面による協定をし、これを行政官庁に届け出なければならない。

「4-2 用語の定義・労働契約等」参照

■問 19 正解：1

1. 正しい。
2. 誤り。使用者は、4 週間を通じ 4 日以上の休日を与える場合を除き、労働者に対して、毎週少なくとも 1 回の休日を与えなければならない。
3. 誤り。労働時間の延長、又は休日労働させる場合は、労働組合がない場合においては労働者の過半数を代表する者との書面による協定が必要である。
4. 誤り。使用者は、その雇入れの日から起算して 6 ヶ月間継続勤務し全労働日の 8 割以上出勤した労働者に対して、継続し、又は分割した 10 労働日の有給休暇を与えなければならない。

■問 20 正解：1, 4

1. 正しい。
2. 誤り。使用者は、満 16 歳以上の男性を交替制によって使用する場合その他法令で定める場合を除き、満 18 歳に満たない者を午後 10 時から午前 5 時までの間において使用してはならない。
3. 誤り。使用者は、産後 8 週間を経過しない女性を就業させてはならない。ただし、産後 6 週間を経過した女性が請求した場合において、その者について医師が支障がないと認めた業務に就かせることは、差し支えない。
4. 正しい。

「4-6 年少者・妊産婦等」参照

■問 21 正解：4

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。使用者は、労働者名簿、賃金台帳及び雇入、解雇、災害補償、賃金その他労働関係に関する重要な書類を 3 年間保存しなければならない。

「4-9 労働者名簿・賃金台帳等」参照

■問 22 正解：2, 3

1. 誤り。運転時間は、2 日（始業時刻から起算して 48 時間をいう。）を平均し 1 日当たり 9 時間、2 週間を平均し 1 週間当たり 44 時間を超えないものとする。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。使用者は、貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者に労働基準法第 35 条の休日に労働させる場合は、当該労働させる休日は 2 週間について 1 回を超えないものとする。

「4-11 労働時間等の改善基準②（運転時間）」、

「4-12 労働時間等の改善基準③（その他）」参照

■問 23 正解：3

自動車運転者の労働時間等の改善のための基準 4 条 1 項一号

拘束時間は、1 ヶ月について 293 時間を超えないものとする。ただし、労使協定があるときは、1 年のうち 6 ヶ月までは、1 年間についての拘束時間が 3,516 時間を超えない範囲内において、320 時間まで延長することができる。

1. 適合していない。1 ヶ月の拘束時間 293 時間を超えている回数が、5 月、6 月、7 月、10 月、12 月、1 月、3 月の 7 回ある。
2. 適合していない。7 月の拘束時間が 320 時間を超えている。
3. 適合している。1 ヶ月の拘束時間 293 時間を超えている回数は、4 月、7 月、9 月、12 月、1 月、3 月の 6 回である。
4. 適合していない。1 ヶ月の拘束時間 293 時間を超えている回数が、5 月、7 月、9 月、11 月、12 月、2 月、3 月の 7 回ある。

「4-10 労働時間等の改善基準①（拘束時間）」参照

■問 24 正解：適 1, 3 不適 2, 4

1. 適切。
2. 適切でない。睡眠時無呼吸症候群は、狭心症や心筋梗塞などの合併症を引き起こすおそれがある。
3. 適切。
4. 適切でない。アルコール依存症は専門医による早期の治療をすることにより回復が可能だが、一度回復しても飲酒すると再発することも多く、アルコール依存症から回復した運転者に対しては、飲酒に関する指導を慎重に行う必要がある。

「5-8 運転者の健康管理等」参照

■問 25 正解：適 1, 3, 4 不適 2

1. 適切
2. 適切でない。霧が発生したときは、前照灯を下向きに点灯する。
3. 適切。
4. 適切。

「5-3 天候・状況等に応じた運転」参照

■問 26 正解：適 3, 4 不適 1, 2

1. 適切でない。自動車の速度が速くなるほど、運転者の視野は狭くなり、遠くを注視するようになるため近くは見えにくくなることから、比較的近くにある障害物等の発見が遅れることがある。
2. 適切でない。前方の自動車を大型車と乗用車から同じ距離で見た場合、運転者席が高い位置にある大型車の場合は車間距離に余裕があるように感じ、乗用車の場合は車間距離に余裕がないように感じやすくなる。
3. 適切。
4. 適切。

「5-1 運転者の感覚・能力」参照

■問 27 正解：適 3, 4 不適 1, 2

1. 適切でない。踏切内で自動車が故障して運転できなくなり、立ち往生してしまったときには、速やかに列車に対し適切な防護措置をとらなければならない。まずは報知機や発煙筒などを使用して、列車の運転手に踏切内に自動車が立ち往生していることを知らせ、その後自動車を踏切外に移動させる。
2. 適切でない。大地震発生時、自動車を置いて避難するときは、エンジンを止め、移動を可能とするためエンジンキーを付けたままにし、窓を閉め、ドアをロックしない。他人が動かせないと、後に避難の邪魔になることがある。
3. 適切。
4. 適切。

「5-5 緊急時の措置・タイヤの機能等」参照

■問 28 正解：適 1, 2, 3 不適 4

1. 適切。
2. 適切。
3. 適切。
4. 適切でない。事業用自動車の定期点検を怠ったことが原因で重大事故を起こし、行政処分を受けることになった場合、整備管理者が責任を負

うこととなり、当該重大事故を含む運行管理業務上に一切問題が無ければ、運行管理者が運行管理者資格者証の返納を命じられることはない。

「5-9 運行管理者の業務の指針」参照

■ 問 29 正解：適 2, 4 不適 1, 3

1. 適切でない。乗務前の点呼における事業用自動車の日常点検の実施結果については、当該点検において不具合もなく何も問題がない場合であっても、当該自動車に乗務する運転者から報告を求める必要がある。
2. 適切。
3. 適切でない。このような点呼の実施方法は「点呼の委託」といい、輸送の安全の確保に関する取組が優良であると認められる営業所（Gマーク取得営業所）についてのみ認められている。
4. 適切。

「1-9 点呼」、「5-9 運行管理者の業務の指針」参照

■ 問 30 正解：3, 4

1. 誤り。一般道路においては時速 50km 前後で走行している。道路標識等により最高速度が指定されていない一般道路における自動車の最高速度は時速 60km 以下であることから、一般道路の走行において最高速度違反は見られない。
2. 誤り。高速道路においては時速 80km 前後で走行している。道路標識等により最高速度が指定されていない高速道路における大型貨物自動車の最高速度は時速 80km 以下であることから、高速道路において最高速度違反が見られる。
3. 正しい。連続運転時間が 4 時間を超えていないので違反していない。
4. 正しい。

「3-3 自動車の速度」、「4-11 労働時間等の改善基準②（運転時間）」

「5-11 運行記録計の読み取り・荷扱い指示マーク」参照